

海外研修訪問先

1、JICAタンザニア事務所訪問 (オリエンテーション・安全対策ブリーフィング)

タンザニアにおけるJICAの支援や地方行政の仕組みについて知る。日本がアフリカに援助をする理由についての説明があり、援助方針について理解し、都市部と農村部との格差問題、他国とタンザニアとの関係について知ることが出来た。



2、タンザニア中央図書館 (青年海外協力隊活動視察)

青年海外協力隊（職種：PCインストラクター）の活動現場である図書館を視察。協力隊員は職員のPC能力向上を目指し、将来的には蔵書登録を行いたいとの事であった。タンザニア人同僚の声を聞きながら活動する重要性が伝わった。



3、ダルエスサラーム市内視察

徒歩にて市内を散策し、街の様子や人々の生活を感じ取る。



4. 地方行政プロジェクト概要説明



企画調査員より、地方自治体参加型計画に係る能力強化プロジェクトについて、タンザニアの地方行政の仕組みについて説明を受けた。

5. JICAボランティアとの意見交換会



参加教員とボランティアで積極的に意見交換を行った。さまざまな問題に直面しながらも、価値観の違う国で頑張る日本人の姿が印象的だった。

6. ドドマ州立病院（青年海外協力隊活動視察）

青年海外協力隊（職種：理学療法士）の活動現場である州立病院にて、院長、副院長と懇談、リハビリ室・リハビリ方法を視察し、医療現場の現状を知る。



7. ナネナネ農業祭（青年海外協力隊活動視察）

広く国民に親しまれ、毎年行われている農業祭を訪問し、青年海外協力隊（職種：村落開発普及員）の出展パビリオンを視察する。協力隊員による生活用水の改善を図る取り組みや、「適正技術研究所」の人力で道路を作る技術を紹介したブース見学を行なう。



8. ドドマ→バガモヨへ移動



バガモヨに移動途中、立ち寄った村を見学する。首都や大都市での生活様式とは違ったタンザニアの一面を垣間見られ、タンザニアの人々の暮らしを想像する貴重な材料になった。

9. バガモヨ市内視察

インド洋沿岸の港町や市場を散策し、タンザニア人の生活を知る。途中目にした裸足でサッカーをする子ども達が印象的だった。



10. バガモヨ歴史博物館

奴隷貿易やバガモヨの歴史について知る。奴隷が収容されていた建物、繋がれていたバオバブの木を目の当たりにし、バガモヨのきれいな海とは対照的な悲しい歴史を見た。



11. Imai Upendo na Matumaini 孤児院 (青年海外協力隊活動現場)

子どもたちとの交流。参加教員による楽器演奏の御礼に子ども達がダンスを披露してくれたが、彼らのリズム感やエネルギー、一体感に圧倒された。さまざまな環境で育った子ども達は人なつこく、参加教員は積極的に子ども達に関わっていた。また、協力隊員の同僚とHIV/AIDSに関する取り組みについての意見交換を行なった。



12. Slip Way, Tingatinga 村 (教材収集)



教材収集・タンザニアを代表するアフリカンポップアートのひとつ、ティンガティンガに触れる。

帰国後の実践授業に活用できそうな教材を購入した。



13. Kilangalanga セカンダリースクール (青年海外協力隊活動現場)

青年海外協力隊（職種：理数科教師）の活動現場で数学の授業視察と、参加教員による模擬授業（数列の授業・静電気の実験）を行なう。

電気や教科書、学用品などが不十分な中でも生徒の学習意欲が高いことに参加教員は驚いていた。またタンザニアと日本の生徒の違いを知るために、生徒へのアンケートを実施した。



14. Oysterbay 変電所 (JICA無償資金協力・オイスターベイ送配電施設強化計画)

電力供給の不足が問題となるダルエスサラームで、停電や電圧低下の少ない、安定した電気を届けるために建設された変電所を視察し、専門家よりプロジェクトについての説明を受けた。日本を代表してアフリカへ技術を伝える専門家の姿が印象的だった。



15. JICAタンザニア事務所 (報告会)

海外研修を振り返り、印象深かったことや所感、今後の実践授業にどう活かしていくかを報告した。参加教員は、今回の体験を今後は他の教員や生徒たちに伝え、自らも学び続け行動していきたいと感じておられた。

16. 在タンザニア日本大使館 (大使表敬)

タンザニア大使へ海外研修の報告をおこなう。大使からはタンザニアへのODAの役割、外交を知る有意義な時間となった。

参加教員は今後もタンザニアについての理解を深めていくことを意識され、10日間のタンザニア研修を終えた。

